



地域医療連携室だより

Vol. 139

発行元 地方独立行政法人
市立大津市民病院 地域医療連携室
住所 〒520-0804
滋賀県大津市本宮二丁目9番9号
電話 077-526-8192
FAX 077-522-0192 発行日:2020年12月1日

市立大津市民病院 検索

だより内に  が 5ヶ所登場しています。ぜひ探してみてください。疫病退散。

呼吸器内科のご紹介

呼吸器内科 診療部長: **平沼 修** ひらぬま おさむ



呼吸器内科では常勤医師4名、外来の非常勤医師2名を加えて計6名体制で診療しています。当科の特徴は、他科との連携を密にしている事です。特に呼吸器外科には VATS 下に縦隔リンパ節生検や肺生検を多数依頼しており、他施設と比較して診断から治療までの期間が短縮しています。また多職種カンファレンスを通じて常に患者さんファーストの診療を行っています。

コロナ禍で当科の診療も変化せざるを得なくなりました。呼吸器内科は文字通り「呼吸」に関連する疾患について診療しています。SARS-CoV-2 のように感染力の強いウイルスに対しては「呼吸」に関する検査や治療を制限もしくは中止せざるを得ません。現在「呼吸機能検査」「呼気 NO」は中止しています。前者は「COPD」「気管支喘息」後者は「気管支喘息」に関連するものです。代替の検査はなく「問診」「症状」「診察」「血液検査」「画像検査」で「COPD」「気管支喘息」に対して対応していますので従来通りご紹介よろしくお願い申し上げます。

「呼吸」に関する治療では睡眠時無呼吸症候群「CPAP 療法」により SARS-CoV-2 を周囲に「まき散らす」可能性があるため、当科におきましては睡眠時無呼吸症候群の診療を休止しております。当分の間、先生方にご迷惑をおかけしますがご理解よろしくお願い申し上げます。

がん診療連携支援病院である当院は放射線治療も可能であり、肺癌診療については拠点病院と何ら変わらない医療を提供しております。「薬物療法」「手術療法」「放射線療法」の3本柱に「緩和ケア」病棟を有することにより当院での肺癌診療は大変充実しております。西日本で「肺癌」を専門にしている大学は京都府立医科大学、和歌山県立医科大学等と少数です。京都府立医科大学呼吸器内科の関連病院である当院は大学と密に連携しており、特に「薬物療法」では大学が主導するさまざまな多施設臨床研究に参加し、エビデンスを構築しております。県内には肺癌症例数が多いがん拠点病院もありますが、「肺癌」に特化している大学と連携することで多施設臨床研究の結果、「このケースはこの治療法が良い」という知見が得られるようになりました。単施設ではできないことです。がん拠点病院、がん支援病院だからという視点ではなく、多施設でがん診療に対して連携し診療を行っている当院に対してご紹介して頂ければ幸いです。何卒よろしくお願い申し上げます。



呼吸器内科多職種カンファレンスのメンバー



医療機器の専門家

手術室には欠かせない臨床工学技士

臨床工学部

技師長: 木村 啓志



臨床工学技士は、1987年に新しく出来た国家資格で、生命維持管理装置をはじめとする医療機器の操作及び保守管理をおこなうことを業としています。歴史は浅いですが、近年、医学の進歩とともに医療機器も大きく進歩している中、医療機器の安全をつかさどる臨床工学技士のニーズは非常に高くなっています。

市立大津市民病院では、高度化する医療・機器に対応すべく、臨床工学技士18名で、業務を「循環器部門」「呼吸代謝部門」「血液透析部門」「医療機器管理部門」「手術室部門」の5部門に分け、横断的かつ専門的に活動できるよう組織しています。また、2015年から当直を開始し、24時間365日、迅速に対応出来る体制を整えています。

多岐にわたる業務ですが今回は手術室にスポットを当てて紹介したいと思います。



手術室における臨床工学技士の役割は、使用する医療機器の操作及び保守管理業務と器械出し業務の2つとなります。

医療機器の操作及び保守管理業務

医療機器の操作業務としては、心臓手術に用いる人工心肺装置の操作があげられます。我々は心臓血管外科や麻酔科と息の合った操作を心がけ、安心・安全な技術提供を心がけています。その他にも、低侵襲手術ができる内視鏡手術支援ロボット「da Vinci」、脊椎や脊髄手術で使用する神経モニタリング装置、手術ナビゲーションシステムなどがあり、手術を行う上で欠かせない高度な医療機器にも対応し、手術中の縁の下の力持ちとして活躍しています。

また、電気メスや内視鏡システム、麻酔器などの日常点検、劣化や故障を未然に防ぐための定期点検を行っています。修理やメンテナンスが必要な場合は、メーカーと連携をとり、常に最高の状態で機器を使用できるように努めています。



器械出し業務

器械出し業務は、専任の臨床工学技士が看護師とともに患者様の安全を考え、日々業務にあたっています。当院では、高度な医療機器が清潔野でも使用されることが多くなったことから、器械出し業務に対する臨床工学技士のニーズが高まり、2016年から器械出し業務を行っています。臨床工学技士が器械出し業務を行うことは珍しく、滋賀県初の試みとして注目されています。高度化する医療機器に対して安心・安全に手術が受けられる環境を整えることが我々の使命であり、業務を通じて日々研鑽に励んでいます。まだ始まったばかりの業務ですが、今日の手術には欠かせない存在である事は確かです。これからも、皆様と一緒に地域医療を支えていければと思います。



感染症 ER 建設中！



全国での新型コロナウイルス感染症の患者数が連日過去最多を更新し、第3波への懸念や医療への逼迫などが世間を賑わす中、当院としても年末の季節性インフルエンザ及び新型コロナウイルス等の対応の一貫として、新たに感染症 ER 棟の建設を進めています。

設置場所は当院 ER おおつ前の平面駐車場で、特徴は以下の通りです。

- 二次感染防止のため、建物外部に開放廊下を設置することで、患者が外側から出入りする導線(欧米型)とする
- 新棟に感染症用の CT 装置を設置
- 建物は建築コストが安価で工事期間も短い木造平屋建
- 陰圧管理とすることで、空気感染にも対応
- 完成・運用予定(目標): 令和2年12月中

実際の稼働に向けては、人員の問題、運用方法の構築など解決すべき課題がたくさんありますが、完成すれば今以上に安全でクリアに運用を分けることができるため、各部署が知恵を出し合い協力し合いながら検討を進めています。



2020.10.21 時点 建設風景



2020. 11.17 時点 建設風景



2年目研修医 note

①名前: ^{あかほり ひなこ}赤堀 日向子

②出身大学・卒業年度:

滋賀医科大学 平成 30 年度

③趣味: 折り紙、カメラ

④医師を目指した理由:

人の役に立てる仕事だと感じたからです。

⑤どんな医師になりたいですか？

向上心を忘れず、謙虚に勉強し続けていきたいです。

⑥研修医2年目の目標

苦手と感じている分野を重点的に学びたいです。

⑦地域の先生方へのメッセージ

いつもお世話になっています。未熟な点ばかりですが
ご指導よろしくお願いします。



MSWアイコさん

作・画 まさろん

①



②



③



④



クイズの答え: 1 ページ目 左下/2 ページ目 右上 /4 ページ目 アイコさんタイトル 中央に2つ/診療状況 右

発熱外来の予約制を始めます！

現在当院の発熱外来は予約制をとっていませんが、患者様の診療待ち時間の短縮を目的として、12月1日(火)より、**予約制を導入**することとなりました。

発熱外来へご紹介いただく場合には、予約のご案内をさせていただきますので、何卒ご理解・ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

※緊急を要する発熱患者様に関してはその限りではありません。

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)による診療状況

2020年12月1日(火)時点

診療制限は特に行っておりません。通常診療体制です。



地域医療連携室/入退院センターより

相談・退院支援を担当しています、看護師の福田です。

保健、医療、福祉、介護の各分野は単独では成り立たず、全ての分野で必要とされる看護師の活躍の場も広がりました。

地域包括ケアシステムにおける多職種連携では、急性期病院の看護師としてのスタンスから共通の目的に向かって協働することで、病棟勤務時代とは違う様々な経験をさせて頂いております。

患者様だけでなく、様々な職種の方からも「相談しやすい相談員」となれるよう、日頃からのコミュニケーションを大切にしていきたいと思っています。

地域医療連携室/入退院センター: ^{ふくだ}福田 ^{ともみ}知美

